

日本文化発信プログラム ～2年間の発信力～

平成20年度の外務省事業として始まった日本文化発信プログラム。中・東欧4か国（ブルガリア、ハンガリー、ポーランド、ルーマニア）で26名のボランティアが活動し、全員無事任期を終えて帰国いたしました。平成21年1月から2年間、ボランティアはそれぞれの得意分野を生かし、現地の要望に応え、たくさんの都市で、さまざまな手法で日本文化を発信しました。プログラムで実施したイベント数は4か国で総計**326回**!! シリーズで行った講座等はまとめて1回と数えているため、実数はさらに上回ります。各国でのボランティアの功績は大きく、それぞれのイベントは高く評価されています。ボランティアの活動を通して多くの人たちが日本文化を知る機会を得ることができました。

紹介内容は多岐にわたります。茶道、華道、着物の着付け、書道、踊りなどの伝統文化。三味線、箏、太鼓、沖縄三線などの邦楽器。アニメ、まんが、J-POPなどの現代文化。折り紙、切り紙、和風、独楽、竹とんぼ、けん玉、福笑い、紙芝居などの玩具や遊び。その他空手、ラジオ体操、食文化、絵本の読み聞かせなど、挙げるときりがありません。

見せ方にも色々あります。ステージなどで見せたり、聴かせたりするデモンストレーションパターン。ビデオやDVD、パワーポイントを準備して講演や講義、説明をするプレゼンテーションパターン。参加者が日本文化を体験することができるワークショップパターン。

会場も市民公園などの屋外会場や、博物館や図書館、体育館などの公共施設で不特定多数の来場者を対象とした大会場、学校や大学単位の文化祭、地域の人に来てもらうための中規模会場の文化イベントもあれば、教室レベル、文化習得のため希望者に開かれた公開講座などの小規模クラスのものまであり、天候も雪の日や暑い日もありました。

こうした会場の規模や対象者の年齢、人数、目的に合わせてイベントを実施してきましたが、これまでご紹介したように、どんなイベントにも事前準備に費やす時間、当日を迎えるまでの変更との調整、臨機応変な対応を迫られる実施環境、後片付けまでの責任、荷物を抱えての移動など、想像以上の苦勞がつきものでした。それらを克服し、寛大な心と柔軟な対応で素晴らしい成果を残した26名。ボランティアの素敵な笑顔と雄姿には、日本文化を発信する誇らしさ、伝える楽しさ、交流する素晴らしさが詰まっています。細やかな努力の結晶として、派遣国ではたくさんの日本文化ファンが増えました。この功績を心から称えます。



(企画開発課 日本文化発信プログラムチーム)

♡このシリーズは本報告をもって終了いたします。ご愛読いただいた皆さま、どうもありがとうございました♡